

日本私立歯科大学協会加盟 17 校の入学試験に対する基本的考え方

(一社)日本私立歯科大学協会加盟校は入学試験(以下、「入試」という。)の実施において、これまで公平かつ厳粛に行ってきたが、今般、医科大学入試に係わる不適切とされる事例が報道され、社会問題となっていることを受けて、本協会としても、入試制度に関する考え方について、加盟17校の共通認識として、以下のような公表を行うものである。

1. 公平性や透明性は医療の本質であると同時に入試においても同様である。
2. 大学設置基準および大学入学者選抜実施要項を遵守し、入学者選抜は、中立・公正に実施する。
3. 歯科医師の国家資格にかかわる歯学部への入学は、卒業後の職業に直結する。したがって、その進学が、どのような資質・能力・特色を必要とされる医療人となることなのかを明確にしておく必要がある。
4. 公平性と透明性を担保し、各大学が掲げるアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーに基づいた国民に望まれる医療人を育成すべく、厳正な入試審査に努める。
5. 歯学部の入試では、学力とともに医療人に必要な基本的資質を求めている。入学者は、国民の医療を掌る覚悟が必要であり、そのため入試では、学力のみならず、受験生の人間性を十分に評価する必要がある。
6. 特別入試(推薦・AO 等)は、人物重視の多面評価を行ううえで、効果的なマッチング入試である。面接(個別面接、グループディスカッション等)や小論文などによって医療人としての適性及び資質の判定は重要である。一方で、面接員、評価者の評価基準が重要であり、複数の評価者による、公平性の担保をしてきており、これを引き続き実施する。
7. 一般入試(入試センター試験利用を含む。)は、医療系では特に「医療人としての適性」としての観点を重視することから、面接試験を併せて実施してきており、これも引き続き実施する。
8. 私学は、建学の精神をその教育の理念として、歯科医師の育成をはかる教育機関である。アドミッションポリシーは、この建学の精神に基づき、求める入学者の条件を具体的に提示したものであり、志望動機とその意思を見極めることが必須であることから、面接試験の中では、これらを理解しているかを確認する質問が含まれる。また、医療人に必要なコミュニケーション力、優しさ、温かさが必要とされる。

以上